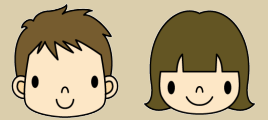


すくすく

えこちるっこ!
ふくおか



—第4号—

エコチル調査にご参加いただいているみなさまへ

エコチル調査に参加してくださっているみなさま、こんにちは！

かなり寒い日が続きますね。ご家族のみなさまはお元気でお過ごしでしょうか？

エコチル調査にご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。エコチル調査に参加してくださっている方は全国で5万4千人を越えました。全国の参加者合計数の目標は10万人ですので、みなさま方のご協力により、折り返し地点をすぎたところ・・・ということになります。

さて、先日1月23日にエコチル調査開始2周年記念イベントが東京にて開催されました。そのシンポジウムにて公表されましたエコチル調査集計結果の一部「妊婦さんとそのパートナーの喫煙状況」をご紹介します。



これらは、2012年10月末までに登録された3万人以上のデータ

を用いて集計されたものです。

最初の図（下記左図）は妊娠初期の妊婦さんにおける喫煙状況を示しています。妊娠がわかった後も喫煙している妊婦さんは、各年代に4-10%、すなわち10-20人に1人くらいいらっしゃいます。

次の図（下記右図）は、妊婦さんの年齢別にみたパートナー（男性）の喫煙状況を示しています。妊婦さんが若いほどパートナーの喫煙率が高いことがわかりました。妊婦さんに対する受動喫煙の影響も懸念されるところです。

これだけの調査規模で、妊婦さんとそのパートナーの喫煙率を明らかにしたのは、エコチル調査が初めてとなります。こどもたちが健やかに成長できる地球環境のため、今後もエコチル調査にご理解とご協力をお願い申し上げます。

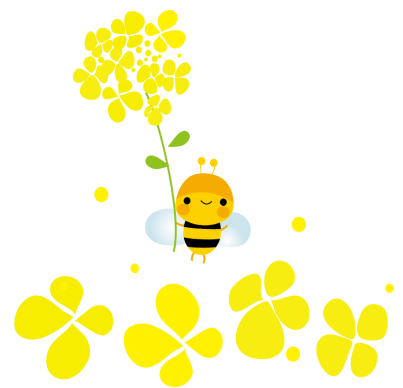
インフルエンザや嘔吐下痢症が流行しています。ご家族のみなさまのご健康をお祈りいたしております。

福岡ユニットセンターにご登録いただいている
エコチルママ
(平成25年1月31日現在)

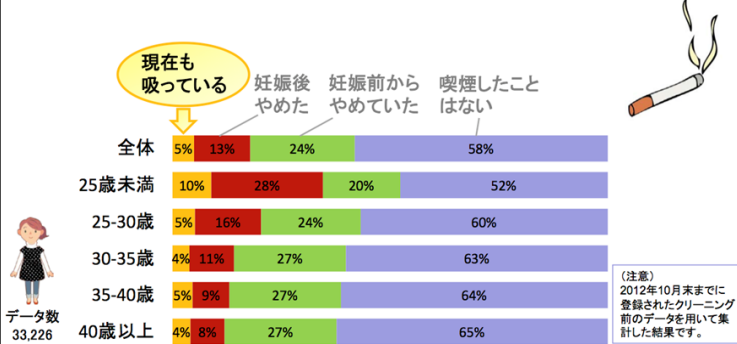
4635人

すくすく
えこちるっこ!
ふくおか

平成25年2月1日発行



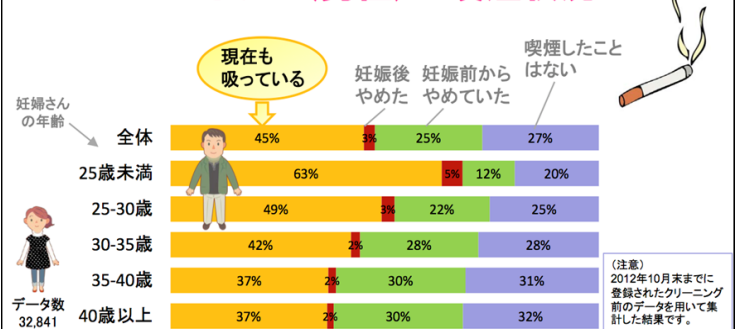
妊婦さんの喫煙状況(妊娠初期)



- ◆ 妊娠初期に喫煙している妊婦さんが、各年代4~10%。
- ◆ これだけの調査規模で、妊婦さんとそのパートナーの喫煙率を明らかにしたのは初めて。

妊婦さんの年齢別にみた

パートナー(男性)の喫煙状況



- ◆ 妊婦さんが若いと、そのパートナー(≒若い男性)の喫煙率が高い。
- ◆ 受動喫煙の影響が懸念される。



こどもの病気の基礎知識 —インフルエンザ—

インフルエンザウイルスに感染することによって急に発症し、症状が重く、感染力も強いのが特徴です。日本では毎年11月～翌年4月に流行がみられます。

インフルエンザの予防として効果が期待できるのがインフルエンザワクチンの接種です。流行シーズンを迎える前の10-11月頃に、13歳未満は2回、原則として2～4週間の間隔をおいて接種することをおすすめします。ワクチンの効果が現われるのはおよそ2週間後からで、その後約5か月間持続すると言われています。インフルエンザが発症しても、発熱後12時間までは検査で陰性になることがありますので、発熱後すぐに焦って受診するより、自宅でゆっくりと休息をとってからかかりつけの先生を受診しましょう。

●家庭で気をつけることは・・・

言動がいつもと違うとき、けいれんがおこったときなどは速やかに医療機関を受診して下さい。インフルエンザと診断されたら、自宅でできるだけ安静にし、処方されたお薬を指示通り内服し（吸入薬もあります）、栄養と十分な睡眠をとりましょう。またインフルエンザウイルスの活動や感染を抑えるために、加湿器などで室内の湿度を50～60%に保ちます。水分補給はお茶、スープ、ジュースなど何でも結構です。

処方されたインフルエンザのお薬は発症後48時間までに使用を開始すること、熱が下がったからといってすぐに自己判断でお薬を中止しないことなどを守り、医師の指示に従ってください。熱が下がっても2日間は他の人に感染する力がありますので、油断せずに感染防御に努めましょう。



なになに？えこちるっこQ&Aコーナー

なになに？えこちるっこQ&Aコーナーは、エコチル調査にご参加いただいているお母さまや、えこちるっこたちの健康や病気に関するご質問にお答えするコーナーです。今回は小児科外来でよくあるご質問のひとつ、「アトピー性皮膚炎」についてお話ししたいと思います。

アトピー性皮膚炎は、皮膚に炎症が起こり、強いかゆみを伴う湿しんができて、よくなったり悪くなったりを繰り返す慢性疾患です。

アトピー性皮膚炎がある場合、遺伝的な体質（アトピー素因）によって、皮膚のバリア膜が弱くなっているため、汗やほこりなどのさまざまな刺激物が入りやすくなっています。そのため炎症が起こり、湿しんができて強いかゆみが生じるのです。

アトピー性皮膚炎の治療は、「スキンケア」「薬物療法」「悪化因子の除去」が3つの柱です。まず、入浴で皮膚を清潔に保ち、保湿外用薬を使って皮膚の乾燥を防ぎます。炎症や湿しんがあるところには、ステロイド外用薬などを使用します。また、アトピー性皮膚炎は「ストレス」「気温」「湿度」「体調不良」「発汗」「衣服」「化粧品

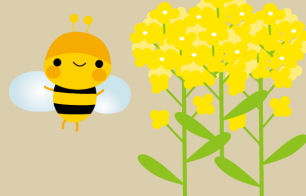
「食べ物」などさまざまな要因によって悪化することがあるため、取り除くことができる悪化因子はできる限り取り除くことも大切です。

アトピー性皮膚炎が起こる「体質」そのものは、残念ながら完全には変えることはできません。

「完治」を目指すのではなく、「標準治療で症状を抑え、アトピー性皮膚炎のない人と同じように社会生活を送る」ことを目指し、“病気とうまくつきあっていく”という姿勢が大切です。標準的な治療を行っていても、さまざまな要因によって症状が悪くなることがあります。そのような場合にも自己判断で薬の使用を中止したりせず、皮膚科専門医に相談したり、スキンケアの方法を見直すなど症状の改善を図りましょう。

質問票は6か月ごとにお送りしております。遅くなくても構いません、お手元にまだご回答いただいていない質問票をお持ちでしたら、ぜひご記入の上、ご返送をお願いいたします。また、質問票を紛失・破損された場合でも、お気軽に事務局までご連絡ください。すぐに新しい質問票をお送りいたします。

引き続きエコチル調査へのご協力をどうぞよろしくお願いたします。



■発行
九州大学エコチル調査事務局内
すくえこ編集部

〒812-8582
福岡市東区馬出3-1-1
九州大学
コラポステーションⅡ701

電話・FAX (092) 642-6453

ホームページ:
<http://eco.kyushu-u.ac.jp/>